

# 暖冬対策特報 2020・2月

2020年2月17日  
JA中野市営農センター

前例にない暖冬状態です。2月中旬以降も高温状態が続く見込みで、このまま経過すると生育が大幅に進み、凍霜害や各種障害発生等が心配されます。つきましては、下記を参考に早めに対策を講じてください。

- ◆ 気象特記(1月)：気温平年比+4.4℃ 降雨平年比67% 日照量平年比85% 最高13.3℃(1/29) 最低-10.4℃(1/22)
- ◆ 気象特記(2月)：気温平年比+0.0℃ 降雨平年比113% 日照量平年比98% 最高11.6℃(2/3) 最低-17.3℃(2/7) \*2/10時点
- ◆ 気象庁 1か月予報(2月)：平年に比べ気温の高い日が多い予想。日照時間は少ない見込み。
- ◆ (参考) 生育が非常に早かった年度：H14 H16 H28 H30 ⇒ 過去20年で最速はH14。この年度はぶどうを除く全ての品目で4/20前に開花  
(参考) 果樹試験場エゾノコリンゴ発芽：R2 1/30 \*過去10年では最速。昭和50年からの統計開始では5番目に早い。過去最速H1の1/16

品目名	H14	H16	H28	H29	H30	R1	R2 予想
もも 白鳳開花	4/9	4/15	4/10	4/19	4/12	4/20	4/6?
りんご ふじ開花	4/19	4/22	4/21	5/1	4/21	4/30	4/17?
巨峰 発芽	4/15(果樹試)	4/20	4/21	4/28	4/21	4/28	4/15?

## 1. 果樹

### 【せん定】

- ◆ **剪定作業は例年より早めに終了させる。**
- ◆ 核果類：特に生育が早い品目であるので、せん定作業は極早めに終了させ、休眠期防除に入る準備をする。
- ◆ ぶどう：樹液流動前(水上げ)前にせん定作業が終わるようにする。
- ◆ りんごふじ等：凍霜害により結実不良が心配される。ついては、花芽は多めに残す。
- ◆ 凍害対策：切り口からの枯れ込みが心配される。傷口の保護等に努める。(トップジンMペースト等の塗布)

### 【春先の管理】

- ◆ **休眠期防除：生育をよく観察し、発芽前の防除適期を逸しないように注意する。**ぶどう以外は3月末までに実施する。
- ◆ 春先の極度の乾燥が予想される。適宜かん水に努め初期成育を促す。
- ◆ 防寒資材(ワラ他)については1回目の薬剤散布直前まで外さない。
- ◆ 凍霜害対策：燃焼資材や防霜ファンの点検を早めに行う。\*詳細は裏面参照
- ◆ 結実確保対策：人工授粉を徹底する。例年より回数を多めに実施する。共同開葯事業並びに販売花粉等をご利用ください。

## 2. 野菜・花き

### ② 野菜

- ◆ レタス等の育苗中の野菜は、温湿度の急変による生育障害を防止するため、適切な保温、換気、土壌水分管理に努める。
- ◆ アスパラガスの休眠覚醒には、一定の低温積算時間と水分が必要なため、ハウス被覆開始は早くとも3月からの被覆とし、併せてかん水を実施する。
- ◆ 生育の前進化により凍霜害の影響を受けやすいため、必要に応じ、トンネル、寒冷紗、不織布等の被覆により被害回避を図る。

### ③ 花き

- ◆ シャクヤク：ハウス作型は降水量が少ないため、かん水を実施してください。草丈15cmの伸長期に十分伸ばすようにしましょう。30年度は水不足により、草丈不足、蕾の肥大不良(やや小さめ)となりました。
- ◆ トルコギキョウ：定植前、苗の順化(ハウス内でのならし3~5日程度)を行い、日中のやけに気をつけて小トンネル開閉時間が遅れないようにしてください。温度管理は、8~25℃
- ◆ ギガンチウム他：ギガンチウムは、萌芽開始しています。除草剤散布は、作物に当たらないように散布してください。ハウス作型は被覆前の水不足のためかん水をおこなってください。

～凍霜害対策特報 2020 は次項記載～

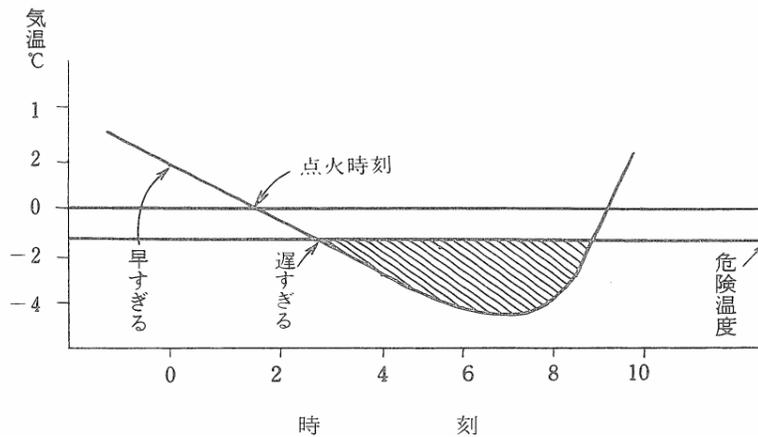
# 2020 凍霜害対策特報

2020年2月17日  
JA 中野市営農センター

## 果樹の凍霜害危険温度と燃焼法による正しい点火時期

### 果樹の凍霜害危険温度(30分間、℃)

種類	生育ステージ		
	色づいたつぼみ	開花中	小さい幼果
りんご	-2.0	-1.5	-1.7
もも	-2.3	-2.3	-1.9
おうとう	-2.2	-2.2	-1.1
和梨	-2.5	-2.0	-1.3
西洋梨	-3.9	-2.2	-1.1
すもも	-5.0	-2.7	-1.1
ぶどう	-1.1	-0.5	-1.1



## 燃焼法と注意点

	10アール当り必要量	火点数	備考
デュラフレーム	40～50個	40～50個	燃焼時間：3時間 固形燃料(木粉+パラフィン系)
灯油	150 <sup>リットル</sup> ～180 <sup>リットル</sup>	40～50ヶ所	燃焼器の口径20cmを基準

\*灯油の燃焼にあたっては、住宅地に近い所や集団での燃焼はさける。

\*環境汚染につながる資材の使用は絶対避けてください。(例：古タイヤ・ビニール等)

\*デュラフレームは、旧名シーダーフレームです。

- ① 現在最も広く用いられている直接的防霜対策は燃焼法です。燃焼法における注意点は以下のとおりです。
- ② 火力は弱くても火点をできるだけ多くするのが理想的である。火力を強めて火点を少なくすることは温度むらを生じやすい。
- ③ 火点の密度は園の中央部より外周部を密にする。風のある時は、風上側を密にする。霜道にあたっている園では冷気の流入口に火点を密にする。
- ④ 気温が0℃になったら点火し始め、-1℃以下にならないうちに全点火を終えるようにする。
- ⑤ 霜夜は2～3日連続して訪れることが多いので、燃焼資材は前もって十分用意しておく。

## 防霜ファン

- ① シーズン初めは電源スイッチを入れ、設定温度やファンの作動を確認する。
- ② サーモスタットの感温部は地上1.5mの所に設置しておくが、直射日光が当たると実際の温度の低いうちに感温し停止してしまうことがある。感温部は直射日光が当たらないよう設置しておく。
- ③ 生育ステージにより作動設定温度を変える。(表) 危険温度が高くなった時期(開花期)や樹種(ぶどう等)により、さらに2～3℃高めめの+4～5℃に設定するのが安全である。
- ④ 停止設定温度も生育ステージによって変える。降霜があった朝は温度が十分に上昇する8～9時頃まで作動させる。
- ⑤ 防霜ファンの効果限界温度は、-3℃である。したがって-3℃になる恐れのあるときは、燃焼法との併用を行う必要がある。
- ⑥ 温度設定は次のような設定を基本とする。

生育段階	始動温度	停止温度
発芽～展葉期	1℃	3℃
つぼみが風船状にふくらんでから以降、晩霜の危険がなくなる時期まで	3℃	6℃

## 応急技術対策

- ① 人工受粉を実施し、減収をきたさないようにする。
- ② 胚珠の黒変したものは落下するので、被害程度に応じて摘花(果)の強さを加減する。
- ③ 被害を受けたものはサビ果・不正形果が多いので、摘果に際しては特に傷の少ない長めの正形果を残す。
- ④ りんご・ナシ類：摘果は結実確定次第すみやかに行き、少なくとも満開30日以内に終了する。
- ⑤ もも：川中島白桃は必ず人工授粉を実施する。
- ⑥ 核果類：摘果は落花後40～50日頃までに終了する。
- ⑦ ぶどう：被害程度の軽いものはそのままにしておく。
- ⑧ ぶどう：新梢の基から2～3節(葉)の部位まで被害のあるものは、外見上花穂は無被害のように見えても花器に被害があるので、被害のあるものは整理する。
- ⑨ ぶどう：できるだけ副芽を利用して芽数の確保につとめる。

## 共同開薬所からお知らせ

開設時期は3月下旬頃を予定しています。生育が非常に早い年度は凍霜害に遭遇する危険性が高いため、防霜対策を万全に行い、人工授粉作業は例年以上に徹底してください。(昨年は低温・凍霜害による結実不良が散見されました)

○高品質栽培の第一歩は結実確保からです。共同開薬所では、販売花粉の取り扱いもあります。早めにご予約ください。十分ご用意しています。

○販売花粉 薬量25g(10a分) 6,600円(税込) ※予定価格です。詳しい内容については、3月に各地区を通じてお知らせいたします。